

市町村名	浦添市						
令和2年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	地域資源復元推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-ア		
担当部署名	教育部 文化財課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄らしい風景づくり		
事業内容	沖縄の歴史的景観を再生し、沖縄らしい風景づくりを推進し歴史・文化の継承を図るため、地域に所在する文化・観光資源である市指定文化財等や中頭方西海道等の歴史の道のルート等の環境整備や民俗文化財の説明板の設置を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和4年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R2年度(繰越)	R4年度	R5年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	1,800	11,626			
	(b)予算現額	1,800	0				
	(c)増減額(b-a)	0	▲11,626	0	0	0	
	(d)繰越額	0		11,626			
	A.計(b+d)	1,800	0	11,626	0	0	
	B.執行済額	1,738	0	10,653			
	うち交付金充当額	1,390	0	10,750			
	次年度繰越額	0					
	執行率(%) (B/A)	96.6%	#DIV/0!	91.6%	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明	中間の地頭火叉神の整備に関し説明板の製作・搬入に時間を要し繰越し施工を行った。文化財調査審議会等との調整により植栽を抜いたり、入札差額により91%の執行率になった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	仲間火叉神復元整備工事	目標	(復元整備工事)	( )	( )	( )	
		実績	復元整備	復元整備			
中頭方西海道ルート石畳舗装整備	目標	( )	(実施設計、工事)	( )	( )		
	実績		設計・工事完了 舗装面積 142㎡				
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中頭方西海道ルートの一部を琉球石灰岩を用い平成30年度に続き、令和3年度でも行った。</li> <li>・市指定史跡「仲間拝所群」の1つである「地頭火叉神」の復元修復のための設計を令和元年度、整備工事を令和2年度で行った。</li> </ul>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(27年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	仲間の火叉神復元整備工事	目標	( )	(復元整備工)	( )	( )	( )
		実績		復元整備	復元整備完了		
	【参考指標】 イベントの参加者人数	目標	(290名)	(274名)	(274名)	( )	( )
実績			99名				
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市指定史跡「仲間拝所群」の1つである「地頭火叉神」の復元修復のための整備工事を令和2年度繰越事業で令和3年度で完成させた。</li> </ul>						

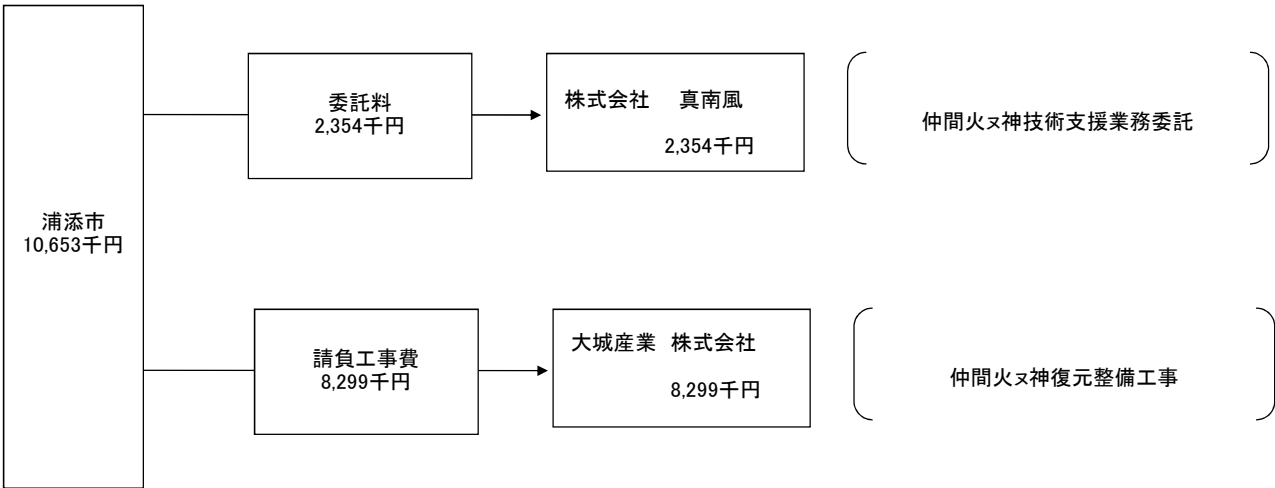
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>浦添市には、国指定史跡の外に市指定文化財をはじめ地域の文化的資源が多く所在するが、現状では十分に活用されていないことから、遺構の復元や周辺の環境整備が課題となっていた。これまで「史跡安波茶樋川」の整備や「史跡クバサーヌ御嶽」の復元整備、「地頭火ヌ神」の周辺環境整備も徐々に整ってきた。琉球王朝時代の宿道であった中頭方西海道の表示舗装については市道部分がかなり進んでおり、アプローチさせるイベント「尚寧王の道をたどる」によって観光資源として積極的な活用を行えるようになってきた。また、観光資源としてだけでなく、整備することにより地元市民の文化財への誇りや愛着、保護活動なども芽生えており、地域起こしの一環として自治会へも実施推奨を促すことも目標としなければならない。そうすることで観光資源としての価値が定着し安定した資源となる。コロナウィルスの影響でイベント参加者や観光客が減少している。</p>	<p>史跡の観光資源としての価値を高めるため、各史跡を「点」で整備するだけではなく、複数の文化的資源やその導線も含めて整備することで、「テーマ」や「ストーリー」を設定しやすくなり、より活用に資するものと思われる。このことから、中頭方西海道は沖縄県や那覇市と協力することにより周辺の史跡を含めた文化的資源やそれらの導線についても継続的に復元整備および環境整備を進めていくことで、より事業効果が期待できると考えられる。今後も文化財等の整備を継続するとともに、観光部局やNPO法人うらおそい歴史ガイド友の会との連携を図りつつ観光資源としての活用を積極的に推進していくことが有効と考えられる。琉球王朝時代の宿道をたどる(「尚寧の道をたどる」)イベントの拡充や地域散策、ウォーキング大会へのルート設定、地域学習のような史跡見学会など直接史跡に触れ合える機会を増やすことによって、地域学習や地域おこしにも繋げていく。</p>

**今後の取り組み方針**

・「尚寧王の道をたどる」や「地域散策」、「浦添でこウォーク」等のイベントやwebを通した参加勧誘や史跡紹介などに力を入れる。  
 ・令和4年度以降は、中頭方西海道ルートの中の県道部分の整備の働きかけや普天満参詣道に通ずる歴史の道の石畳み舗装の整備も計画する。

**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
10,653	10,653	8,521	2,132	0



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負業者は指名競争及び地方自治法施行令、浦添市契約規則に基づき選定、委託、請け負っており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○委託に関しては文化財の特殊性を考え設計業者と支援業務の随意契約を結び管理した。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断している。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	